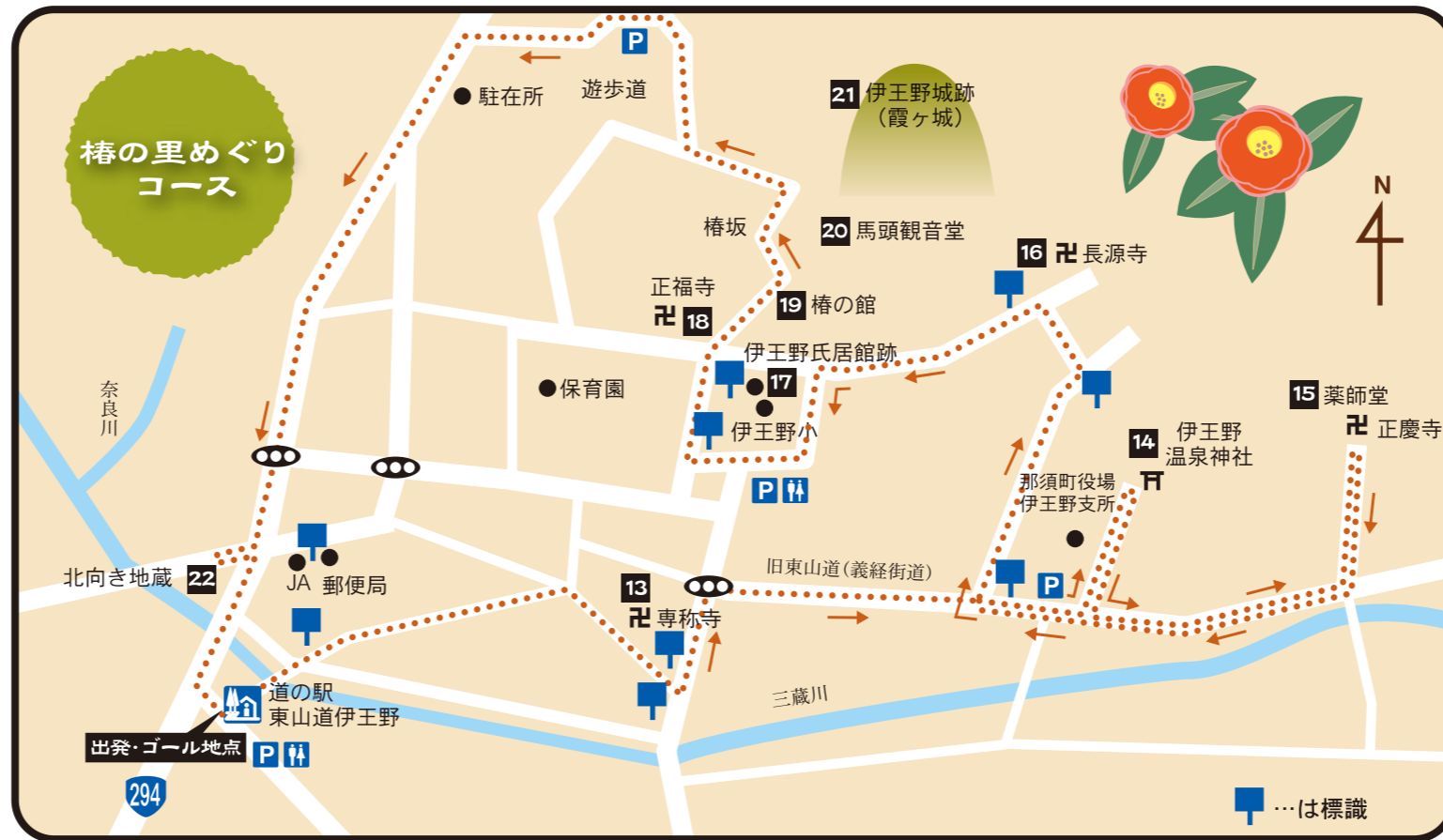


義経伝説の東山道 椿の里伊王野

義経街道とも呼ばれる旧東山道は、その名が示すとおり源義経が治承4年(1180年)兄頼朝の平家追討の拳兵に呼応して、奥州平泉を後に一路鎌倉へと向かった道です。この地には義経伝説を裏付ける数多くのものが残されており、里人に親しまれ、愛されながら語り継がれています。

椿の里めぐりコースの所要時間と距離

出発(道の駅東山道伊王野)	[5分・0.3km]
13 専称寺	[10分・0.5km]
14 伊王野温泉神社	[10分・0.6km]
15 薬師堂	[30分・1.3km]
16 長源寺	[10分・0.4km]
17 伊王野氏居館跡	[5分・0.1km]
18 正福寺	[5分・0.1km]
19 椿の館	[5分・0.1km]
20 馬頭観音堂	[5分・0.1km]
21 伊王野城跡	[30分・1.2km]
22 北向き地蔵	[5分・0.2km]
ゴール(道の駅東山道伊王野)	※約5.0km 約2時間



花ごよみ

2月	ツバキ	3月	カタクリ
4月	カタクリ	桜	田植え
5月	藤の花	柳	あじさい
6月	あじさい	6月	あじさい
9月	彼岸花	10月	稲刈り
11月	大イチョウ		



歳時記

1月	薬師堂 初詣	10月	やな漁、サケ漁解禁
2月	大和須地区百万遍念仏	11月	伊王野温泉神社付け祭
3月	溪流釣り解禁	12月	長源寺 除夜の鐘つき
4月	馬頭観音春まつり		
5月	盆踊り大会		
6月	鮎解禁		
7月	睦家地区百万遍念仏		
8月	大畑地区灯籠まつり		
9月	北向き地蔵縁日		



伊王野温泉神社付け祭の様子

道の駅 東山道伊王野
 【定休日】1月1日~3日
 ●お食事処水車館 TEL.0287-75-0654
 【営業時間】11:00~16:00
 客席64席、水車小屋のひき臼で粉を挽き、手打ち蕎麦など地元の食材を使用しています。
 URL http://www.michinoeki-tosando.jp
 ●物産センター TEL.0287-75-0577
 【営業時間】8:30~17:00
 地元産の新鮮な野菜を販売しています。そばソフトクリームもおすすめです。
 道の駅のシンボルの水車は、直径12mの主水車と、5.6mの水車があり、巨大な石のひき臼でそば粉を挽くのを見学することもできます。施設は、伊王野まつり伝承館、物産センター、水車館(食堂)、加工体験施設などがあります。



彼岸花群生地の様子

コース解説

- 東山道は、奈良時代の昔から奈良の都と陸奥の国を結ぶ古の道で、伊王野地区では、義経街道とも呼ばれています。椿の里(伊王野の里)は伊王野氏の城下として栄えたところであり、城跡公園に咲く菘柘やカタクリの花が訪れる人々に親しまれています。また、国の重要文化財である金剛阿弥陀如来立像を安置する専称寺をはじめ、多くの神社仏閣や民話に生きる北向き地蔵などがあり、三蔵川の清流に沿った山里に歴史と伝説がひっそりと息づいています。
- 1 白河の関** 『都をば霞とともに立ちしかど秋風の吹く白川の関』白河の関は、勿来の関、念珠ヶ関と並んで奥州三古関の一つに数えられる我国最古の関である。又「歌枕の関」としても有名であり、人の世の愛憎、別離の情感を表すときに、みちのくの辺境にあり自由な想念の往来を許す白河の関は、格好の創造の“掘り所”であった。
 - 2 白河関の森公園** 『昔日への記憶』 白河の関に隣接する当公園は、歴史と出会い、民俗のこころにふれ、郷土文化を体感する複合的体験ランドとして平成3年4月20日オープンした。昔人の歌人たちがえがいていた「みちのくのイメージ」を光と影の映像により体感できるビジュアルハウス(映像館)をはじめ郷愁を誘う「ふるさとの家」「古代の関所と江戸期の関所」等を復元し、2万株のアジサイやきりしまつづじを植栽し多くの来園者を歓迎してくれる。
 - 3 追分明神(住吉玉津島神社)** 祭神は中筒男命(なかつつのおのみこと)・衣通姫(そとおりひめ)で、延暦10年(791年)坂上田村麻呂の勧請と伝えられ、東山道の国境にある峠神として信仰された。また義経が奥州平泉から頼朝拳兵により上る途中、平家追討の祈願をしたと伝えられている。
 - 4 月夜見山** 義経主従がこの山にかかった月を仰ぎ、行く先の幸を祈ったという。
 - 5 具足岩** 岩が何枚も重なり合い、弁慶が具足のようだと呼びこの名がつけられたという。
 - 6 竜洞不動** シドキ林道の奥300mの所にまつられており、別名白滝不動とも呼ばれている。源頼朝の平泉討伐の時の伝説が伝えられている。
 - 7 沓石** 義経の愛馬のひづめのあとのある大石で、石の上には馬蹄形のくぼみがある。また、この石から沓石の小字名も生まれた。
 - 8 大畑** 義経の軍が旗揚げしたところから大旗とよんだといわれ、現在は大畑という地名となっている。

- 9 彼岸花群生地** 伊王野から白河の関方面に6kmほど行くと左手に美野沢小学校が見えてくる。この小学校周辺の田んぼの畔は、9月のお彼岸になると真っ赤な彼岸花(曼珠沙華)が咲き乱れ、のどかな農村風景と相まって絶好の被写体となっている。
- 10 滝の宮** 義経温泉神社で、創立は古く滝があるので滝の宮と呼ばれている。また、義経がここで先勝祈願をしたともいわれる。
- 11 おんべし(幣石神社)** 義経の一行が休息し、武運を祈って御幣を岩上に安置したのでこの名が起ったという。
- 12 三森家住宅** 長屋門と主屋が国の重要文化財の指定を受けている。関街道に沿った旧家で交代名主兼往来問屋としての住宅である。享保年代頃(18世紀初)に建造されたもので、茅葺きの寄棟造、桁行12間、梁間5.5間と古い建物としては大きく、立派で格がある。昭和60年秋復元工事が終わった。
- 13 専称寺** 伊王野前期葉の菩提所でその初期の墓がある。本尊の文永4年(1267)に製作された金剛阿弥陀如来立像(こんどうあみだみよりいゅうぞう)は国の重要文化財に指定され、脇侍の勢至菩薩立像(せいしほざつりゅうぞう)も県の有形文化財に指定されている。
- 14 伊王野温泉神社** 霞ヶ岡にあり、主祭神は大己貴命(おおおむちのみこと)、少彦名命(すくなひこなのみこと)、誉田別命(ほんだわけのみこと)であるが、伊王野氏により八幡宮も勧請されている。当社の起源は明らかではないが、伊王野家以前に遡れる。拝殿前の神木杉2本は樹齢数百年の老杉で参道の杉並木と供に町文化財に指定されている。
- 15 薬師堂** 正慶寺付属の沼野原薬師堂で元は熊野堂と称する伊王野の郊外にあったが寛政9年(1797)に今の所へ移転したといわれる。室内には町指定文化財の薬師如来立像と十二神将が安置されている。
- 16 長源寺** 伊王野城主資直が開基した。伊王野家後期の菩提寺で町指定文化財の墓がある。昭和29年に復興された梵鐘は平和の鐘として朝夕梵音を響かせている。
- 17 伊王野氏居館跡** 現在の伊王野小学校の校地すべてが伊王野氏居館跡である。この居館は鎌倉時代の初期(約800年前)伊王野家初代資長の構築と伝えられている。資長は、那須の与一の異母弟で那須家の惣領となった頼資の次男である。ここに居館があったのは室町時代の長享元年頃に背後の山城に移るまでの約300年間である。明治以降は、小学校等が建てられ、土塁等も破壊されてわずかにその面影を残すのみとなっている。

- 18 正福寺** 寺伝では徳一法師の開基といわれ、当町内最古の寺といわれる。寺の宝物である鯛口、仏画弘法大師御影・五大菩薩画像は文化財としても優れたものである。
- 19 椿の館** 伊王野城址公園内にあり、椿の里の歴史・文化の散策に休憩したり、研修会等にも利用できる。(施設)和室1室(10畳)広間1室(8畳)、トイレ、湯沸室、申し込み室。
- 20 馬頭観音堂** 義経の愛馬が病気になった時、供の常陸坊海尊(ひたちぼうかいそん)がこの堂の前で七日七夜馬の病気がなおるようにと祈願させたところ、治ったといわれ、また、そのいわれから始まった。
- 21 伊王野城跡** 那須7騎の一家である伊王野家の中期から末期までの居城で霞ヶ岡とも呼ばれる。室町後期の代表的な山城で、寛永4年(1627)に廃城になった。
- 22 北向き地蔵** 「むかし大ききんの時出羽の米沢をめぐっていた旅の親子連れが、伊王野のよねざわで行き倒れになり村人たちが釈迦堂山へ葬り供養してあげました」この北向きじょうはこの親子連れの霊をなくさめるため米沢や釈迦堂山をじっと見守るようにたてられたという。
- 23 五輪塔** 「もらわれてきた子を田かきに酷使した結果、子供が田んぼの中にたおれて死んだので五輪塔を建てて供養した」という話がある五輪塔でその子の霊をなくさめるため里人たちが心をこめてたてた供養塔である。
- 24 弁慶石** 弁慶がその昔、那須山で修行をした折に、下駄に挟まった石を取るうと足を一振りしたところ、ここまで飛んできたという伝説が残っている。一時は国道拡幅工事のため撤去されたが、伊王野地区地域づくり委員会が「弁慶の下駄掛石」として復元した。
- 25 沼野井温泉神社** 神社に残されている八大龍神縁起によると鎌倉時代になって那須氏が家臣の須藤氏に温泉神社に八大龍神を合祀せしめたといわれる。
- 26 稲沢氏居館跡** 那須氏の分家で伊王野氏祖次郎資長の第五郎資家を祖とする稲沢氏の拠点で、現在では土塁(どるい)の一部が残っているだけであるが居館の形式からみて鎌倉前期の構造と思われる。
- 27 舟戸古墳群とハックトンヤ遺跡** 黒川発電所上の崖上のあたりにある遺跡で今までに石器や土器片が多く出土している。この遺跡は、縄文時代中期以降の代表的遺跡であり、町の文化財に指定されている。